

議会

会



私の街こまつ

2021.2

Vol.198

だより

Contents

| | |
|-----------------|----|
| 10月臨時会 | 2 |
| 12月定例会 | 6 |
| 市政Q&A 代表質問・一般質問 | 8 |
| 予算決算常任委員会総括質疑 | 18 |
| 常任委員会 審査報告 | 19 |
| 特別委員会 調査報告 | 21 |

12月議会補正予算5億3,019万1千円を可決



作品名「静物画」

小松市立高等学校芸術コース美術専攻 令和元年度卒業生 菅沼 愛梨 さん

令和2年 第4回臨時会 10月16日

議案第72号 令和2年度小松市一般会計補正予算(第9号)
議案第73号 令和2年度国民健康保険
小松市民病院事業会計補正予算(第5号)

予算に関する
臨時会開催は
17年ぶりです。

補正額1億3,550万円を全会一致で可決

❄️* 中3エール給付金費 1,500万円

ふるさと納税「小松市エール協力金」を活用し、高校進学や就職活動に向け頑張っている中学3年生に対し1人15,000円を支給。

❄️* こまつもんブランド推進費 1,150万円

地産地消の推進と子どもたちにふるさとの美味しいお米を味わってもらうため、学校給食に小松市産のブランド米を提供。また、保育所・高齢者施設、小中学校に対し「こまつもんブランド」認定品やトマトカレーを提供。

❄️* 環境王国ひとづくり支援費 150万円

安宅漁港で水揚げされた魚介類の加工品を製造・販売する市内事業者等を対象に施設整備導入の一部や、販路拡大に要する経費を補助。

❄️* 高齢者等新型コロナウイルス検査助成費 2,000万円

重症化するリスクの高い65歳以上の高齢者や基礎疾患を有する方が希望により検査を受けた場合に費用を助成。
など

会派自民



竹田 良平 議員

- ① リモートツアー
- ② こまつグルメ応援キャンペーン

◆ 新たな生活様式の中での「こまつ旅」リモートツアーについて

- Q 実施のイメージは。いつでも・どこでもツアーが出来るか。
- A 双方向でやり取りのできる疑似体験ツアーで、ライブ中継した動画は、いつでも閲覧可能である。
- Q PR等において旅行会社との連携状況は。また、今後のリアルツアーを見据えてJRや航空各社との連携は。

A 連携する旅行会社のサイト、SNSを活用し、旅好きな方々にも訴求したい。東京オリパラ・新幹線小松開業でインバウンド需要も念頭に置きながら各社との連携を強化したい。

◆ こまつグルメ応援キャンペーン

- Q 和菓子・洋菓子・正月まつりについて具体的な取組は。
- A 季節を感じるテーマで様々な業種で新たな仕組みづくりに挑戦していただく。
- Q 「空の駅こまつ」等で、販売促進キャンペーンと連動した取組は行われるか。
- A 3千円以上お買い上げの方には小松の特産品等をプレゼントし、小松の文化を発信する。
- Q 今後もテーマを決めて新商品開発・販売促進を推進していくのか。
- A 様々な物語で彩られた小松独特の食文化や季節ごとのイベントを意識し進めていきたい。



東 浩一 議員

新型コロナウイルス検査 助成費について

Q 検査助成の対象者について

A 重症化リスクの高い65歳以上の高齢者や基礎疾患を有する方で、要綱上は、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患等が、基礎疾患であり、医師が診察によって判断するものです。ビジネス等の理由で検査を受けられる方については、検査

助成の対象外であり、会社の裁量により民間の検査機関で対応いただく。

Q PCR検査の内容周知について

A 検査費用については、医療機関で一旦支払い、市へ領収書を添付し申請いただく。なお、助成申請書等は、ホームページからダウンロードでき、郵送による提出にも対応していきたい。

PCR検査の周知については、ホームページや広報こまつ等でも掲載予定で、医療機関を通じて必要な方に利用できるように周知を図っていく。



吉本 慎太郎 議員

コロナ対策としての デジタル化の推進

◆企業・事業者のデジタル化推進について

Q 今回の予算案で対象となるシステムはどのようなものを指すか。

A システム導入が主体で、それと連動する周辺機器は補助対象。システム導入を伴わない大型モニター、パソコン購入は補助対象外である。

Q 社内向け、社外向けの違いは。

A 社内向けは働き方改革支援事業補助金で、従業員の労務管理等を自動化・効率化する「出退勤・労務管理」等。社外向けはリモート商談会等支援事業補助金で、ウェブ会議等のシステム導入である。

Q 対象者、特に個人事業者への広範な周知を。

A 広報こまつや商工会議所「会報」の11月号に掲載した。

Q 本店が導入されていた場合、支店は補助対象となるのか。

A 1支店につき1申請とし対象となる。

Q オンライン診療を行う町医者や民間クリニックも個人事業者とみなし、補助対象となるのか。

A 個人の開業医であれば対象となる。

◆デジタル化の推進はあくまで手段であり、真の目的は業務の効率化にある。

Q その意味でも行政機能は社会をつかさどる指針である。今回の予算計上にあたり市役所の業務デジタル化の活用事例を示し、もたらされるメリットを、対象者に懇切丁寧に説明していただきたい。

A LINE防災導入による防災情報周知の迅速化や公共工事における3D-CADを用いた生産性の向上を図った。今後あらゆる分野でデジタル化が進み、個人、企業、行政を問わずICTを活用していく時代となる。一人一人が活躍できる時代に向けて皆さんと一緒に取組を進めたい。

自民党こまつ



吉村 範明 議員

農業・水産業の 強化・支援について

◆学校給食に小松市産のブランド米を活用する事業について

Q 事業内容と予算の内訳は。

A 令和3年3月まで、市内小中学校の給食で提供しているコシヒカリを蛍米、えちやけな、ひやくまん穀に1週間ずつ変更し食べ比べをする。予算は現在使用の米との差額500万円である。

Q ブランド米の普及率は。

A 直売比率は10年前の12%から現在約50%まで向上している。

Q 子どもたちに美味しさと違いを分かってもらうための施策は。

A 長期的には将来のお米のファンを増やすことを狙いとしている。子供によるお米の感想文を生産者に届け、生産意欲の向上や農業に興味を持ち、未来の農業の担い手育成にもつなげたい。



裏面へつづく

◆「小松市の美味しいでお祝いを」について

- Q** 事業内容と予算の内訳は。
- A** 保育所、高齢者施設等にこまつもんブランド認定商品をおやつとして提供。小中学校、全児童にトマトカレーを配布し、予算額は計650万円である。
- Q** おやつ提供は一日だけの事業か。トマトカレーはレトルトを配布か。
- A** おやつは一品で、カレーはレトルトを配布する。
- Q** 消費拡大につなげる施策はあるのか。
- A** 食した子供から大人へのPR効果を狙い地元の消費拡大につなげたい。また、アンケートを実施し集計結果を分析、新たな商品開発の参考にしたい。

◆安宅産魚介類の販路拡大の支援について

- Q** 予算150万円は2件分だが、殺到の場合は。今後の展開は。
- A** まずは予算の範囲内で支援し、申請が多ければ来年度以降、予算要求したい。
- ◆6次産業・地域資源活用事業補助金について
- Q** 事業内容と予算の内訳は。
- A** 6次産業新商品の開発やリニューアルに対する現在の支援制度の補助率1/2を9/10、補助上限額30万円を50万円に緊急的な特例措置として拡充する。
- Q** 販売等、開発後のフォローは。
- A** 商品知名度や魅力を上げるためにこまつもんブランドへ申請し、認定いただければ、ふるさと納税の返礼品に積極的に活用する。こまつ観光物産ネットワークのアンテナショップや道の駅において販売していく。

無党派



木下 裕介 議員

仕事上、3密を避けることが難しい方々のために

◆PCR検査の助成拡大を

- Q** 病院や介護施設、こども園等で不安を抱えながら働いている方も希望があれば検査を受けられるよう対象の拡大を求める。
- A** 感染が疑われる場合は、行政検査や保険診療での検査が基本。今回は、ダブル感染症流行期に備え、高齢者等の重症化の抑制、医療現場の逼迫防止を目的とし、重症化リスクの高い方を重点的に支援する。またインフルエンザ予防接種について施設内感染の防止のため介護施設や障害者施設、認定こども園等、施設職員の予防接種費の助成費を予算化している。

◆リモート商談会支援事業補助金

- Q** 対象経費としてウェブ会議の導入等が盛り込まれているが、既に導入している事業者もいるため、遡及適用を検討できないか。
- A** 導入済みの方々については、さらに高度化を行う場合に活用が可能となるので検討いただきたい。



吉田 寛治 議員

コロナ対策における中3エール給付金について

- Q** 学生のみならず保護者の方も影響が出る中、中学3年生に1万5千円を支給する事は良い事だと思いが、中学3年生だけの理由は。今後も継続する考えはあるか。
- A** 国において高校3年生等を対象に給付金創設の動きがあり、市としても同じ受験生の中学3年生を応援したい。今後、国の動向を注視し、学びの保障について環境を整備する。



橋本 米子 議員

地産地消の推進について

- Q** 学校給食に小松市産のブランド米の提供方法及び期間の設定は。
- A** 11月30日から令和3年3月まで、えちやけな、蛍米、県のひやくまん穀を1週間ずつ食べ比べる。
- Q** 安宅漁港で水揚げされる魚介類の種類と量について。
- A** カレイ類、イカ類、ヒラメ、岩ガキ等約36t。
- Q** 安宅産魚介類の販路拡大のための具体的な支援策について。
- A** 加工品を製造、販売する市内の事業者と漁業者に広告宣伝費や加工に必要な設備導入費等を支援する。